



2月14日 緊急対応訓練行ないます

2月14日 午前 11時05分より 1分間 身の安全を確保するための

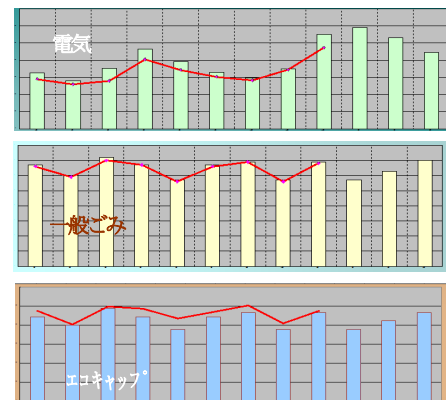
訓練を実施します。構内放送しますので、安全な場所を見つけ、動かず、その場所で待機してください。その後、本社工場中庭に集まり、点呼を取り、全員無事か確認をします。外出中の方も、ラジオ（茨城放送、FMパルレ）の放送で確認するか、または、携帯の機種によっては、警報が作動しますので、訓練に参加してください。自分の回りに度のような危険があり、最も安全な場所を探すための訓練です。命を守るために、大切な行動です。正しく理解して、参加してください。ご家族や身近な人と、防災について考える日にしていただきたいと思います。

フォローアップ自己評価を実施しました

2月6日、2017年度のフォローアップ自己評価を行ないました。定期自己評価では特に、指摘はありませんでしたが、環境影響評価の実施方法を見直す提案がありました。今回のフォローアップでは、12月に実施した評価方法で意見交換しました。また、本年度の5項目の目標進捗については、すべてクリア、順調と説明しましたが、目標進捗では、達成状況がギリギリで、ごみの削減は限界にきていること。また、主要目標が、3年以上経過し、活動そのものに新鮮味がないこと、具体的方策も、毎回変わり映えないなどの意見がありました。今回の意見を踏まえて、次年度の目標設定に活かせるよう検討します。

本年度の環境影響評価の結果

当社をとりまく環境状況が、どのような状態であるか確認するために、一年に一度環境影響評価を行なっています。当社は、空気を汚したり、水を汚したりするような生産設備がないため、重要課題となりやすい項目が、固定してしまいがてですが、重要な活動の一部と捉え、環境経営の認証を取得依頼、継続して実施しています。本年度も、最も要な活動として、電気使用量の削減活動、一般ごみの低減活動と、社会貢献活動の三項目が特定されました。その他、紙の使用、防災訓練、産業廃棄物、そして教育の強化が、環境活動を継続、向上させるために不可欠と評価されました。この結果をもとに、次年度の目標が決定されます。



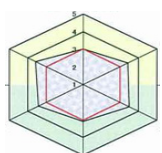
環境影響項目	評価A	評価B	評価C	評価D	悪い環境影響項目特定	重要環境活動項目
1 電気使用量	7	1			◎	
2 水	1	1	1	5		
3 自動車(運送)		2	5	1		
4 紙の使用	1	5	2			○
5 廃棄・梱包材	1	1	3	3		
6 原料			3	5		
7 化学物質			4	4		
8 一般廃棄物	8	2			◎	
9 産業廃棄物	4	4				○
10 騒音・振動・臭気			6	2		
11 製品開発・設計		1	1	6		
12 製品・生産			4	4		
13 販売管理			2	6		
14 クリーン購入		1	4	3		
15 環境保全体制		2	2	4		
16 環境教育・啓発活動	4	3	1			○
17 社会貢献	6	2			◎	
18 防災活動	2	5				○
19 気候変動の緩和	1	3	1	3		
20 生物多様性の保全	1	3	1	3		

最高責任者(社長)のコメント ～ 環境活動の意義 ～



環境活動が品質や安全衛生に比べ、社員の理解が得にくい理由は、環境が目指す方向が「地球規模」であることに由来する。環境活動そのものは、清掃活動であったり、エコキャップ、ごみの分別と、生活に根付いた地道な努力に終始しているが、最大の目標は、地球環境の負荷低減と言った言葉になる。自分達に何ができるか常に考え、活動を継続したい。

今月の環境用語 「自己評価」



環境マネジメントの要求で「自己評価」が求められています。これは、一般的に「内部監査」と呼ばれている手法で、環境活動が要求事項に整合したものか、確認するためのプロセスです。当社では、年二回定期(七月に実施)とフォローアップ(二月に実施)を行なっています。定期で指摘された内容が、どこまで実施出来ているかフォローアップで確認します。

今月の環境目標進捗状況

	今月の目標	今月の実績	今月の評価	本年目標累計	本年実績累計	累計達成率	全体評価
電気使用量削減	29,552kwh	22,711kwh	(達成)	196,228kwh	171,856kwh	114%	↑
一般ごみ削減	57袋	57袋	(達成)	642袋	634袋	101%	↑
エコキャップ回収	753個	784個	(達成)	8,547個	9,062個	106%	↑
美化活動実行	—	—	—	2回	2回	100%	↑
地域環境活動	—	—	—	1回	1回	100%	↑

1月現在、5項目の目標
すべて達成しています。

